

渋沢栄一

ー日本の資本主義の父ー

1. 渋沢栄一生い立ち
2. 江戸へ
3. 徳川慶喜の家臣となりパリへ
4. 明治維新後の渋沢栄一
5. 渋沢栄一という人物
6. 渋沢栄一の功績
7. 渋沢栄一名言集



渋沢栄一 生い立ち

- 1840年(天保11年)現在の深谷市で生まれる
- 現在の埼玉県深谷市血洗島である武蔵国榛沢郡血洗島村の父・渋沢市郎右衛門元助と母・エイの長男として誕生しました。
- 渋沢栄一の生まれた渋沢家は藍玉の製造販売と養蚕、また米や野菜の生産も行う豪農です。
- 一般的な農家とは異なり、商業的な一面も必要とされ、渋沢栄一も14歳の頃から藍葉の仕入れを行うようになります。
- 5歳の頃から父・渋沢市郎右衛門元助の教育で読書を始め、7歳になると四書五経や『日本外史』を学び、剣術は神道無念流を剣術家・大川平兵衛から学びました。



旧渋沢邸「中の家」(なかんち)
「中の家」とは、渋沢一族の
分家の1つの通称で、各渋沢家の
家の位置に由来します。



江戸へ

- 文久元年(1861年)、武蔵国から江戸に出ると、儒学者・海保漁村の門下生となりました。
- また剣術家・千葉栄次郎の道場に入門し北辰一刀流を学ぶと、同じ門下生であった勤皇志士たちと交流を深めるようになります(山岡鉄舟・清川八郎など)。
- この交流から渋沢栄一は文久3年(1863年)頃から、天皇を尊び、外敵を排除しようとする尊王攘夷の思想を持つようになりました。
- 尊王攘夷の思想に目覚めた渋沢栄一は長州と連携して倒幕計画を行いました。従兄・尾高惇忠に説得され、計画は実行されませんでした。
- 尊王攘夷活動を行っていたため父・渋沢市郎右衛門元助から勘当を受けた渋沢栄一は京都へと向かいましたが、当時京都では、過激攘夷派や長州藩などが、京都から追放命令を受けた八月十八日の政変の直後でした。
- このため、渋沢栄一は尊王攘夷活動に行き詰まり、一橋家家老・平岡円四郎の推薦で一橋慶喜(後の徳川慶喜)に仕えることとなります。



千葉道場：千代田区千桜小学校校門前

。「王を尊び、夷を攘う(はらう)」



徳川慶喜の幕臣となりパリへ

- ・ 徳川慶喜の幕臣となる
- ・ 主君である一橋慶喜が江戸幕府第15代征夷大將軍となると、これに伴い、幕臣となりパリで行われた万国博覧会で將軍の代わりとして出席した徳川慶喜の異母弟・徳川昭武に御勘定格陸軍付調役の肩書を得て従い、フランスへと向かいました。
- ・ フランスに渡航した渋沢栄一は、万国博覧会に出席した他、ヨーロッパ各地で先進的な産業、軍備を見学します。
- ・ このフランス滞在中に渋沢栄一は御勘定格陸軍付調役から外国奉行支配調役、その後開成所奉行支配調役に就任しました。
- ・ ヨーロッパ各地を訪問した徳川慶喜の異母弟・徳川昭武がパリに留学したため、渋沢栄一も共に留学しましたが、慶応4年(1868年)5月、明治新政府から帰国を命じられ、同年11月3日に日本に帰国しました。



栄一は、ちょんまげを切って散切り頭で帰国した。



明治維新後の渋沢栄一

- 明治維新となり欧州から帰国した栄一は、「商法会所」を静岡に設立、その後明治政府に招かれ大蔵省の一員として新しい国づくりに深く関わります。
- 1873(明治6)年に大蔵省を辞した後、栄一は一民間経済人として活動しました。そのスタートは「第一国立銀行」の総監役(後に頭取)でした。
- 栄一は第一国立銀行を拠点に、株式会社組織による企業の創設・育成に力を入れ、また、「道徳経済合一説」を説き続け、生涯に約500もの企業に関わったといわれています。

- **第一国立銀行**

1873年(明治6)国立銀行条例に基づいて設立された国立銀行で、日本最初の近代的銀行。当初別々に銀行設立を計画していた三井(みつい)、小野両組が、井上馨(かおる)、渋沢栄一の勧めで、共同出資に踏み切って設立したものである



渋沢栄一という人物

1. 父親が勤勉で、起業家精神に富んだ人物
子供を自由に学ばせるおおらかさ
2. 学びの吸収が早い人：学びに対する順応性
3. 決めるのが早い：決めて実行、失敗したら
方向転換反省
4. 常に前向きに決断
5. 私利を追わず、公益を図る
6. 財閥は作らず
7. 「論語と算盤」は今なお読み継がれている
8. 女性関係：栄一18歳、千代14歳で結婚
千代42歳でコレラで死去
兼子と再婚、
妾は3人 嫡子、庶子合わせて20人いた。



渋沢栄一の功績

＜渋沢栄一3つの功績＞

1. およそ500社の企業の設立に関与。その中には、現在の日本社会のインフラとなる企業も多数ある(日本の資本主義の父と言われている)。
2. 教育、医療福祉、民間外交など社会活動にも積極的に尽力
3. 「士農工商」の名残のある明治初期に実業界の地位向上に貢献。「論語と算盤」をはじめ商業道德の重要性を世に広める

＜設立に携わった企業・団体＞

一企業一

- ・ みずほ銀行、王子ホールディングス、東日本旅客鉄道、東京急行電鉄、東京海上日動火災保険
- ・ 東京電力ホールディングス、東京ガス、日本郵船、帝国ホテル、東宝、澁澤倉庫など

一団体一

- ・ 東京商工会議所、日本取引所グループ、全国銀行協会、一橋大学、日本女子大学、東京女子大学津田塾大学、理化学研究所、東京都健康長寿医療センター、東京経済大学など



渋沢栄一名言集

- * もうこれで満足だという時は、すなわち衰える時である。
- * 全て形式に流れると精神が乏しくなる。何でも日々新たにという心がけが大事である。
- * ただそれを知っただけでは上手いかない。好きになればその道に向かって進む。
もしそれを心から楽しむことが出来れば、いかなる困難にもくじけることなく進むことができるのだ。
- * 自分が信じないことは言わず、知ったからには必ず行うという思いが強くなれば、自然に言葉は少なく、行動は素早くなる。
- * 心を穏やかにさせるには思いやりを持つことが大事である。一切の私心をはさまずに物事にあたり、人に接するならば、心は穏やかで余裕を持つことができるのだ。
- * 夢なき者は理想なし。理想なき者は信念なし。信念なき者は計画なし。計画なき者は実行なし。
実行なき者は成果なし。成果なき者は幸福なし。ゆえに幸福を求むる者は夢なかるべからず。
- * 反対者には反対者の論理がある。それを聞かないうちに、いきなりけしからん奴だと怒ってもはじまらない。
問題の本質的な解決には結びつかない。
- * 長所を発揮するように努力すれば、短所は自然に消滅する。
- * 四十、五十は洩垂れ小僧、六十、七十は働き盛り、九十になって迎えが来たら、百まで待てと追い返せ。